

授業科目 がん薬物療法看護論		科目概要・形式 2単位30時間(15コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 後期開講	オンライン参加 可・不可 「下記6, 7 参照」
科目責任者	鳴井ひろみ			
担 当 者	鳴井ひろみ、本間ともみ、棟方正樹（非常勤）、橋本直樹（非常勤）、千葉典子（非常勤）、清好志恵（非常勤）			
1. 科目のねらい・目標				
<p><ねらい> がんの診断・治療プロセスおよびがん化学療法の最新の薬剤の治療効果や特徴、有害事象を学び、がん化学療法を受ける患者の療養過程を支援するための臨床判断能力を修得する。また、がん化学療法の継続および治療中の生活の質を高めるための療養過程への支援およびチームアプローチのあり方を学び、がん看護専門看護師の果たす役割を開発していく能力を育成する。</p> <p><目標> 1) 抗がん剤・分子標的治療薬の薬物動態と薬理作用の基礎について概説できる。 2) 抗がん剤・分子標的治療薬の有害事象の発生機序と予防について説明できる。 3) がんの診断・治療のプロセスを文献検討に基づき説明できる。 4) がん化学療法のエビデンスに基づく臨床判断を行うために事例検討を通してケアとキュアの統合ができる。 5) 外来・在宅でがん化学療法を受けている患者の生活支援について説明できる。 6) チーム医療を促進するアプローチを説明できる。</p>				
2. 授業計画・内容				
1 回　： 抗がん剤・分子標的治療薬の薬物動態と薬理作用の基礎　（千葉） 2 回　： 抗がん剤・分子標的治療薬の有害事象の発生機序および予防　（千葉） 3～4 回： がん化学療法における診断・治療プロセス（ガイドライン、アルゴリズム）　（鳴井・本間） 各種がんの診断・治療プロセス、およびがんに対する化学療法による有害事象の発生機序と日常生活への影響について、診療ガイドラインやアルゴリズムなどの文献検討に基づき明らかにする。また、有害事象のアセスメントツール、支持療法ガイドラインについて文献検索を行い、療養過程を支援するためのエビデンスに基づく看護援助についてまとめ資料を作成する。 5～6 回： 消化器がん化学療法と看護：事例分析（大腸がん）　（棟方・鳴井・本間） ①事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な医療処置と看護援助についての臨床判断について討議する。 ②がん化学療法の意思決定、がん化学療法の支持療法、多職種との協働のあり方について討議する。 7～8 回： 肺がん化学療法と看護：事例分析（非小細胞がん）　（棟方・鳴井・本間） ①事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な医療処置と看護援助についての臨床判断について討議する。 ②がん化学療法の意思決定、がん化学療法の支持療法、多職種との協働のあり方について討議する。 9～10 回： 造血器腫瘍化学療法と看護：事例分析（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）　（棟方・鳴井） ①事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な医療処置と看護援助についての臨床判断について討議する。 ②がん化学療法の意思決定、がん化学療法の支持療法、多職種との協働のあり方について討議する。 11～12 回： 乳がん・生殖器系がん化学療法と看護：事例分析　（橋本・鳴井） ①事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報等からアセスメントし、必要な医療処置と看護援助についての臨床判断について討議する。 ②がん化学療法の意思決定、がん化学療法の支持療法、多職種との協働のあり方について討議する。 13 回　： 外来・在宅におけるがん化学療法看護　（鳴井） 外来・在宅におけるがん化学療法を受ける患者のQOL 向上のための課題 14～15 回： がん化学療法を受ける患者・家族へのチームアプローチ、がん看護専門看護師の役割　（清）				
3. 教科書、参考書				
講義の中で適宜紹介する。				
4. 成績評価方法				
講義・ゼミへの取り組み状況 30%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 70%で総合的に評価する。				
5. 受講要件				
がん看護専門看護師コースの学生は必修				
6. 社会人学生に対する配慮				
オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。				
7. その他				
・課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。 ・状況に応じて Webex または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。オンデマンドの実施はしない。				

